

# 特別号

# 大阪高松教区報

## 大阪高松大司教区

## 設立式ミサ

### シノダリテイ(ともに歩む)精神を 具現化する新しい教区の船出

日本で初めて二つの教区が一つになる。新しく大阪高松大司教区が船出する設立式ミサが、10月9日、大阪カテドラル聖マリア大聖堂で盛大にささげられた。四国からも5台のバスを連ねて信徒が参加し、聖堂には新しい教区に対する期待と不安が交錯し、待ち受ける課題に挑戦してゆこうとの熱気があふれていた。設立式ミサをもって大阪大司教区と高松教区はその歴史に幕を降ろし、大阪高松大司教区としての歩みを始める。初代大司教として前田万葉大司教が選ばれ、酒井俊弘司教もこれまで同様、大司教を補佐する。

大阪高松大司教区は、和歌山県、大阪府、兵庫県、香川県、徳島県、愛媛県、高知県、1府6県をエリアとしている。設立式ミサでは、そのことを表すシンボルとして府県名が入ったパネルが飾られ、奉納では7府県の旗を先頭に捧げもの(ホスチアとぶどう酒)が運ばれた。大阪高松大司教区のこれからの歩みを象徴する場面だった。



設立のシンボルとなる7府県の旗を両側に掲げ、その中をくぐりホスチアとぶどう酒を奉納

いさつに立ち、「今日は、大阪高松という新しい大司教区が誕生する日であり、歴史的な日です」とお祝いの言葉を述べ、新大司教区の意義は教会共同体のすみずみまでを時代と環境に適合させ、力づけ、強化することにあるとされた。さらに、新大司教区は、私たちに共通の司牧的熱意と献身により深め、広げるためのより効率的な手段を生み出す機会になりうると指摘した。

ファブリス・リヴェ臨時代理教皇大使によって設立大勅書が掲げられ、崔周永(チェジュヨン)事務局長神父によって読み上げられると、大きな拍手が沸き起こった。

ひとつの教区にまとまるうとの思いを込めて、典礼聖歌「ひとつになろう」が力強く歌われた。

前田大司教は説教の中で、新教区設立、教区長任命を受けた心境を「成れかじやロザリオ聖母天高し」の句に込め、大天使ガブリエルから受胎を告知されたマリアに重ねたと語った。

新しい大司教区の保護者を「ロザリオの聖母」と明か



ファブリス・リヴェ臨時代理教皇大使により、大勅書が信徒に向け掲げられた

された。ロザリオの聖母は、注意深く神の言葉に耳を傾けること、試練にゆるぎなく耐えること、真心から祈ること、主のまことの弟子になるための三つの重要なカギを私たちに与える。それはシノドスの教会を構成する不可欠な要素であると説明された。

風土や文化、司牧的環境を異にする二つの教区が一つになるという簡単ではない状況の中で、「ロザリオの聖母への祈りのうちに、『交わり、参加、そして宣教する教会(シノドス)』となるように熱心に祈りましょう」と呼びかけられた。

「十月や大阪高松シノダリテイ」の句をもって説教を締めくくられた。

ミサの終わりに、設立記念セレモニーが行われた。崔事務局長神父から、新しい教区の概要が報告され、日本カトリック司教協議会を代表して大塚喜直(オホツキナオキ)京都司教から、「新しい教区の教会共同体の交わりを深めるために、組織や計画に流されずに、信仰を生きる一人ひとりを大切にするという基本を忘れず、正義と平和、社会の問題に関心をもつ人と連携しながら、出向いて行く教会を目指して」行こうとの祝詞があった。

諏訪榮治郎高松教区名誉司教が紹介され、花束が贈呈された。司教は感謝の言葉とともに、その花束を高松教区を支えてきた、ドミニコ会、オブレート会、スペイン外国宣教会にささげた。

ペトロの「お言葉ですから網を降ろしてみましよう」(ルカ5:5)の言葉を大切にしてきたと紹介された前田大司教には、青年たちから「新教区つなげて祈る花冠」の句がサプライズで贈られた。酒井俊弘補佐司教は「一人で歩んだ後には一人の足跡しか残らない。皆で歩いた後には道ができる」(アフリカのことわざ)、大阪高松みんなで歩み、新しい道を築いてゆきましよう」とセレモニーを締めた。

福音宣教省初期宣教部門副長官から

### 大阪高松大司教区の神の民へのメッセージ

大阪高松大司教区の兄弟姉妹の皆さま

新設される大阪高松大司教区の司教にトマス・アクィナス前田万葉枢機卿が就任されるという重要な機会に際し、皆さまお一人おひとりが私の祈りの中におられることをお約束したいと思います。私の願いは、大阪大司教区と高松教区が一つになることが、魂の救いのために豊かな霊的恩恵をもたらし、力を合わせることでより強い相乗効果を生み出すことです。

大阪大司教区の教会と高松教区の教会は、司牧活動や人的交流など、さまざまな面で長年にわたって協力してきたことは事実ですが、両者の間に相違点があることも当然です。しかし、その違いは、多様な豊かさをもって、新しく設立された私たちの教会の活力を高めることになると信じています。

この一致への旅路において、私は、新大司教区の保護者であるロザリオの聖母を、皆さんの模範として提案します。彼女は謙虚に大天使ガブリエルの言葉に耳を傾け、自分の人生に対する神の神聖な計画を受け入れました。彼女は揺るぎない信仰をもって、御子の十字架刑を忍耐強く耐え忍びました。聖霊降臨のとき、彼女は使徒たちとともに祈り、彼らとともに聖霊を受けました。このように、彼女の生涯は、主の真の弟子となるための3つの重要な鍵を私たちに与えてくれています。耳を傾けること、試練に耐えること、真摯に祈ることです。これらはまた、真にシノドス的な教会を構成する不可欠な要素でもあります。

私たちが互いに敬意を持って耳を傾けるとき、キリストの神秘体の中で、各メンバーに与えられた聖霊の声を聞くことができます。私たちが信仰をもって予期せぬ試練に立ち向かうとき、神は約束された復活の栄光に向けて私たちを準備してくださるのです。さらに、真剣に祈るとき、私たちは聖霊からの賜物によって力を与えられます。聖母に倣い、聖なるロザリオを熱心に祈るなら、地上の巡礼の旅は揺るぎなく天国へと導かれることでしょう。

最後に、私は、聖母マリアが「つねにあなたをその保護のもとにお守りくださり、日本の聖なる殉教者たちがあなたのために執り成してくださるよう願います。皆様の一人ひとりの上に神様の特別な祝福が与えられるよう、真心から祈ります。

キリストのうちに  
+ルイス・アントニオ・G・タグレ枢機卿  
2023年9月7日、バチカンにて  
+フォルトゥナトウス・ヌワチュクウ大司教  
次官

### 教えて、新大司教区

Q. 大阪高松大司教区の保護者、ロザリオの聖母について?

A. ロザリオの聖母の記念日は、毎年、10月7日に祝われている。1571年のレパントの海戦でキリスト教徒がオスマン・トルコに対して勝利を収めたことを記念して、ピオ五世教皇によって定められた。この勝利は、ロザリオの祈りによってもたらされた聖母の助けによるものであると信じられている(毎日のミサ10月号)。前田大司教は、保護者とした理由を①聖母マリアは謙虚に大天使ガブ

リエルの言葉に耳を傾け、自分の人生に対する神聖な計画を受け入れた。②聖母はゆるぎない信仰をもって、御子の十字架刑を忍耐強く耐え忍んだ。③聖霊降臨の時、聖母は使徒たちとともに祈り、彼らとともに聖霊を受けられた。この三点は、新しい大司教区が目指すシノドス(ともに歩む)教会にとって不可欠な要素だからと説明されている。

Q. 新しいカテドラル(司教座聖堂)は?  
A. 玉造、桜町どちらの聖堂に司教座がおかれるかということだが、結論から言うとどちらかが司教座

の置かれた教会になる。正式には、大阪高松大司教区の司教座教会は玉造の聖マリア大聖堂に、同じく玉造の事務局が教区本部事務局となり、旧高松教区の桜町教会は、玉造とともに司教座の置かれた教会としてConcathedralになる。桜町にある旧教区本部事務局も、事務局業務の一部を担うことになる。

世界には、一つの教区内に一つのカテドラルと複数のConcathedralが存在する教区がある。大阪高松大司教区も玉造がカテドラル、桜町がConcathedralになる。※Concathedralの公式訳は今後決定される。

Q. 着座式とお知らせがあったが、設立式ミサになった?  
A. 教会管区大司教に着座した司教は、牧者として「教え」「治め」「聖別する」という高貴で繊細な職務の象徴としてパリウム(白い羊毛で織られた首にかける带状の布、教皇の権威の象徴であり、聖ペトロ大聖堂で教皇によって祝福される)を授けられる。前田大司教は、大阪教会管区(大阪、名古屋、京都、広島、高松)の大司教としてすでに着座し、パリウムも授けられている。

今回、大阪高松大司教区が新設されるが、教会管区としては変更がないので改めて着座する必要はないことと、設立ミサになった。しかしながら、設立ミサ中、新大司教区設立が宣言された後、初めて新大司教区の司教座に座ることになるため、それを表現するため、設立ミサ冒頭は別の席に座り、宣言の後に司教座に移ることにしたそう。



### 大阪高松設立式

## 信徒の感想



徳島教会 伊丹隆志

最初に話を聞いた時は驚きました。これからどうなるのか不安がなかったといえれば嘘になります。設立される広い教区のもとで、より多くの方と分かち合い、信仰を深めることができればと思います。感謝のうちに。

松山教会 丸野 毅

新大司教区設立、新たな気持ちで「ともに歩む」。日本で2つの教区がひとつになることは初めてのことで、これからの教会の役割について、戸惑いや不安もありますが、新しい教区の仲間として、シノドス「ともに歩む」の精神でさまざまな課題に挑戦していきましょう。

芦屋教会 嶋田 博行

大阪教区・高松教区の互いの細かい事情は知りませんが、シノドス「ともに歩む」の精神に即していることだと思います。いろいろな問題もあるかもしれませんが、これから手を携えて、歩んでまいりましょう。



大阪高松大司教区

# 設立セレモニー



## 新教区報ロゴ大募集

### 募集内容

- ・新教区報「カトリック大阪高松大司教区報」1面に使用するにふさわしい教区報名称ロゴのデザイン原案

### デザインの条件

- ・「大阪」「高松」「教区報」の3語を含むこと
- ・未発表のオリジナル作品であること
- ・印刷寸法が縦78mm×横24mmなので、この比率で作成すること(枠線部も含む)
- ・作品内で使用するフォントは、商標への使用及び商標登録が可能なものであること
- ・カラー・モノクロいずれも可

### 応募資格

- ・大阪高松大司教区に所属する信徒(含む聖職者・修道者)と教区内の学校や施設の生徒・入所者・職員

### 応募方法 (下のQRコードから送信できます)

- ・大阪高松大司教区報西部版窓口(takamatsu.koho@gmail.com)に、デジタルデータ(PDFまたはJPG)によりデザインを送信すること
- ・メール本文に、
  - ①氏名(応募者が未成年の場合は保護者氏名も)、②住所、③年齢、
  - ④所属教会(学校、施設)、⑤連絡先電話番号を記載すること

### 応募締切

- ・2023年12月31日(日)午後5時メール必着のこと

### 審査方法

- ・前田万葉大司教・広報担当者により1作品を選定する

# 募集中

QRコードは  
こちらから  
読み取ってください▶

